

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter



平成28年度 第2号
2017年1月13日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 佐浦 隆一

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地 KRP6号館3F
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL: 075-326-1331 FAX: 075-326-1331 E-mail: office@kinkireh.com



代表幹事の挨拶

大阪医科大学 総合医学講座
リハビリテーション医学教室
佐浦 隆一

日本リハビリテーション医学会近畿地方会(以下、近畿地方会)会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。また、近畿地方会幹事会を代表し、近畿地方会活動へのご協力に心よりお礼申し上げます。

さて、昨年は久保俊一先生(京都府立医科大学)が会長となり公益社団法人日本リハビリテーション医学会(以下、医学会)学術集会在、7000名を超える参加者を得て、国立京都国際会館で「軌轍と融和」をテーマに開催されました。また、この学術集会上に前後して医学会の新執行部(理事、監事)の改選がありましたが、監事には菅本一臣先生(大阪大学)、理事には久保俊一先生、田島文博先生(和歌山県立医科大学)、道免和久先生(兵庫医科大学)、佐浦隆一(大阪医科大学)と近畿から5名の役員が選出され、さらに久保俊一先生が理事会一致で理事長に推薦、就任されました。

今、久保俊一新理事長のもと、医学会はめまぐるしいスピードで変わりつつあります。東京の医学会事務局も移転し、また、日本心臓リハビリテーション学会や回復期リハビリテーション病棟協会、日本理

CONTENTS

- ◆代表幹事の挨拶 1頁
- ◆新幹事の抱負 1-4頁
- ◆第4回近畿地区新専門医・若手リハ医交流会開催報告 4頁
- ◆第53回日本リハビリテーション医学会学術集会上を開催して ... 5頁
- ◆第11回日本リハビリテーション医学会
専門学術集会上に参加して 6頁
- ◆第42回近畿地方会学術集会上開催にあたって 6頁
- ◆第42回近畿地方会学術集会上開催概要 7頁
- ◆2017年度近畿地方会研修会カレンダー 8頁
- ◆編集後記 8頁

学療法士協会、日本作業療法士協会をはじめとするリハビリテーション関連職の学協会などにも働きかけ、医学会がリハビリテーション医学・医療におけるハブとなるための方針と施策が次々と発表、そして実施されています。

本年10月28～29日に開催される第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会上(会長 菅本一臣先生・大阪国際会議場)のテーマも「すべてがかかわるリハビリテーション」です。

近畿地方会でも総会(平成28年7月2日)で新幹事会が選出され、引き続き私に代表幹事の任が与えられました。近畿地方会も医学会の変革に遅れることなく、財政基盤を強化しながら、さらに前に進みたいと考えています。そのためには、近畿地方会の会員の皆様の積極的なコミットメントが必要ですので、どうぞよろしくお願ひ致します。

新幹事の抱負 (掲載順不同)

新幹事の自己紹介です。経歴も専門領域もそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける熱意は大きく、近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。

村田 顕也 和歌山県立医科大学 神経内科



和歌山県立医科大学神経内科学講座の村田顕也でございます。このたびは、日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事にご推薦いただき本当にありがとうございました。

私は昭和63年に香川医科大学(現香川大学医学部)を卒業いたしました。奈良県立医科大学で臨床研修後、同大学で神経内科・リハビリテーションの診療に従事し、平成17年に和歌山県立医科大学に赴任いたしました。本学では、神経内科に入院されたパーキンソン病や多系統萎縮症などの神経変性疾患に対して薬物療法に加え、早期から積極的なリハビリテーション介入を行っています。薬剤を使用しなくてもリハビリのみで症状改善が認められる症例もあります。また、筋萎縮性側索硬化症のリハビリにも積極的に取り組み、神経内科疾患の診断・治療から在宅医療までを含めた総合的な観点からのシステムを構築しています。また、研究面では田島教授のご指導のもと、筋疾患の嚥下障害、錐体外路疾患の姿勢保持の研究をリハビリテーション医学講座と共同して行い、科研費やその他の研究費も取得しています。このように、本学では、神経内科・リハビリテーション科が共同して、患者第一主義の医療を実践いたしております。今後とも、皆様のご鞭撻・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。